

* 竹田市感染症情報(竹田市独自集計) *

令和8年第39週 (9月21日～9月27日)

10月

今週の報告値は、連休にかかわる医療機関の休診のため少ない可能性があります

インフルエンザについて

今週の竹田市調査医療機関からの報告数は27人と先週と同等です。すべてインフルエンザA型でした。大分県全体では定点あたり5.03人と、先週の5.93人と比較して減少しました。



流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)の報告がありました

流行性耳下腺炎は、ムンプスウイルスによって起こる感染症で、発熱や耳の下(耳下腺)の腫れ、痛みなどがみられます。飛まつや接触によって感染し、感染してから症状が出るまでには2～3週間程度かかります。日頃から手洗いなどの感染対策を心がけましょう。

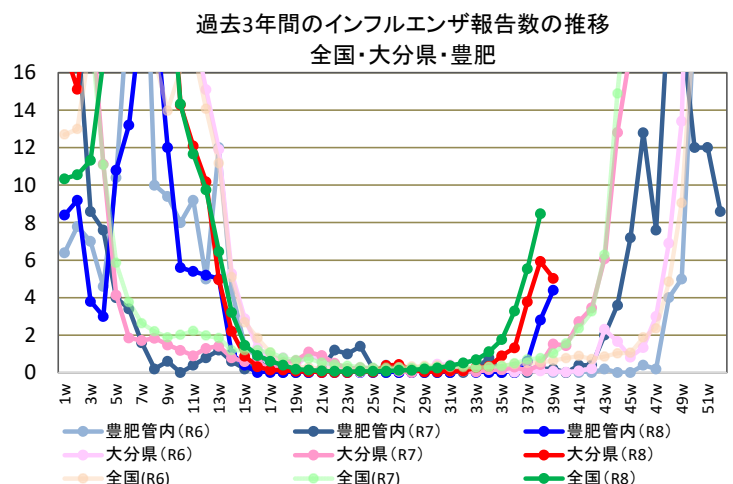
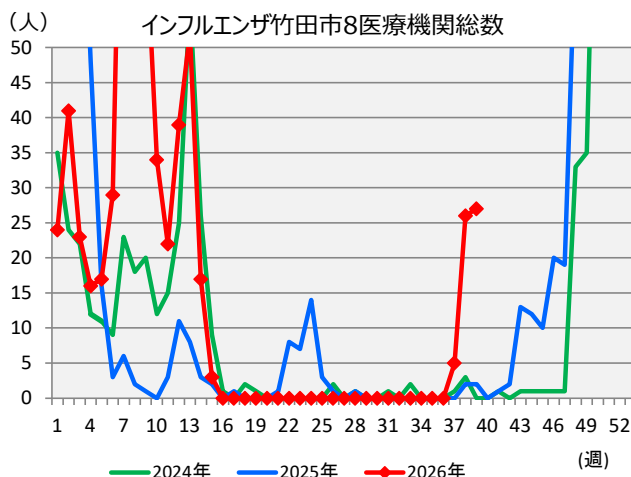
非結核性抗酸菌症(NTM症)について

非結核性抗酸菌症は、環境中に広く存在する非結核性抗酸菌(non-tuberculous mycobacteria: NTM)によって発生する感染症で、肺への感染が最も多いと報告されています。国内で患者数が増加傾向にあり、高齢者に多くみられます。主な症状は、肺の内部で病変をつくり、長引く咳、痰、発熱などです。NTMは土壌などの自然環境や浴室のシャワーヘッド、水道の蛇口などに生息し、菌を含むエアロゾルの吸入等により、肺内に取り込まれます。ただし、免疫状態や体質によって、吸入しても発症しないこともあります。一般的に、ヒトからヒトへは伝播しません。環境中に菌が広く存在するため、完全に予防することは困難です。長引く咳や痰などの症状がある場合は、早めに医療機関を受診して、早期発見・早期治療につなげることが重要です。

(第39週)

(調査医療機関8か所の総患者数)

疾患名 年齢	インフルエンザ			新型コロナウイルス感染症	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱(プール熱)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘(みずぼうそう)	手足口病	伝染性紅斑(リンゴ病)	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎(おたふくかぜ)	マイコプラズマ肺炎	麻しん(全数報告)	風しん(全数報告)	百日咳(全数報告)	つつが虫病(全数報告)
	A型	B型	不明																
0歳	1																		
1～3歳																			
4～6歳	2			1															
7～9歳	4													1					
10～14歳	5																		
15～19歳	2																		
20歳以上	13			1				1											
今週	27			2				1						1					
	27																		
70歳以上(再掲)																			
先週	24			2				2											



日本全国、みんなで予防 インフルエンザ!

インフルエンザの予防には
みんなの「かからない」、
「うつさない」という気持ちがとても大切です。
手洗いでインフルエンザを予防して、
かかったら、マスク等せきエチケットも
忘れないでください。



インフルエンザ
予防キャラクター
マメゾクくん



インフルエンザ
予防キャラクター
アズキちゃん

●インフルエンザに関する情報 検索 <http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/influenza/index.html>

1年間で
(2025年)

新規登録者数

9,899人

死亡者数(前年)

1,474人

新登録結核患者は高齢者に多く、およそ6割が60歳以上となっています。

あります

結核

令和の日本にも

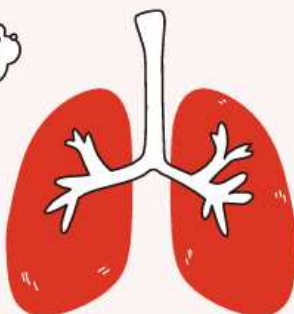
早期受診、
早期診断
で正しい治療を!

せき・たんが2週間以上続いたり、発熱や体のだるさが続く場合は、早めに医療機関を受診しましょう。



基本的な感染対策
が有効

呼吸器感染症には、インフルエンザ、新型コロナウイルス感染症、細菌性肺炎などがあり、手洗い、換気、咳エチケットなどの基本的な感染対策・予防が有効です。



呼吸器
感染症
の
コト

正しく知ろう

さまざまな
症状がみられる

非結核性

抗酸菌症

非結核性抗酸菌症では、長引くせきやたん、発熱、倦怠感、体重減少などのさまざまな症状がみられますが、結核とは異なり、通常は人から人へ感染しません。

※NTM(nontuberculous mycobacteria) 非結核性抗酸菌

という視点を

NTM症

長引く咳に



診断や治療に時間がかかることがあるため、症状が続く場合は早めに受診しましょう。

